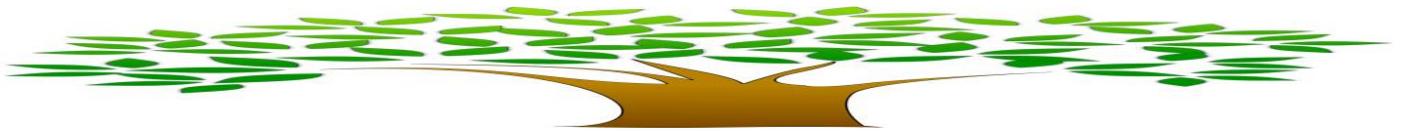


こころに吹く風は…<カウンセリングルーム便り>

寒い毎日が続いていますが、チューリップの芽が土の中からによっきりと、顔を出してきているのをご存知ですか? 「自然界では春の準備が整っていますよォ～」とメッセージを送られたように感じます。

先日、カウンセリングルームに来られたお母さんから、心がぬくぬくと温まるメッセージを頂きました。

「最近、ふと思い出したんです。ベビーカーを押しながら、我が子が冷たい風に当たらぬように一生懸命守って道を歩きながら子守唄歌って歩いていたことを…。まんざらでもなくいいお母さんやっていた自分は頑張っていたんだあって。」 子育てに悩み、母親としての自分自身に自信を失くしかけていたお母さんの素敵な言葉でした。まずは、我が子に真っ向、向かい合っているお母さん自身にたくさんの誉め言葉を贈りたいものです。まずは自分自身に、そして我が子に、たくさんの誉め言葉を贈ってあげてください。



「言葉は言霊 (ことだま)」…… アルフレッド・アドラー博士は「一人の人間をダメにするのは簡単だ。その人に向かって毎日、毎日『お前はだめな人間だ』とさえいっていい」といっています。言霊とは、言葉には不思議な力が宿っていて、言った言葉通りに事象がもたらされる、と信じられてきたことを意味します。

『水からの伝言』(波動教育社)の著者江本勝氏は、「言葉」によって水の結晶が変わることを実験で証明した方です。実験方法は水道水をビーカーに入れ、ビーカーの表面に言葉を書いた紙を貼り、そのビーカーを氷らせ、顕微鏡で氷の結晶を写真に撮ったのです。この実験で明らかになったことは、「きれい」「天使」「愛」「感謝」「安心」「平和」と書いた紙を貼ったビーカーの水の結晶は、きれいな六角形の水の結晶になっています。「きたない」

「悪魔」「ばかやろう」「むかつく」「戦争」「しなさい」という言葉の水の結晶は、水の結晶をしておらず、黒くうずまいていたり、茶色のヘドロのようであったりと、見ただけでその違いが明白だったそうです。水でさえも言葉に反応します。まして、私たちの体の70%は水分です。言葉が体に及ぼす影響を考えれば、子どもを育てていくとき、「言葉」は直接子どもに届くだけに、心して言葉をつかう必要があります。

「ねばり強い子 やりぬく子に育てる本」 坂本洲子著より抜粋

浅間台幼稚園では、来年度も坂本洲子先生の「子育て講座」を予定しております。ご期待ください。